

マテリアリティとESG推進体制

当社グループは、企業行動規範の実践を通じて、社会の持続可能な発展に貢献していきたいと考えています。その実現のために、ESGを経営の最重要課題の一つとして捉え、重要課題(マテリアリティ)に対して全社横断で取り組む組織体制を構築しています。

マテリアリティ（重点課題）とKPI（重要業績評価指標）

当社グループのマテリアリティは、2040年長期ビジョンを実現するために優先的に取り組むべき重要な社会課題です。世界的な社会課題とSDGsが掲げるゴール、当社グループの事業環境などを踏まえて2020年度に見直しを行った結果、6つのマテリアリティを特定し、それぞれについてKPIを設定した上で、ESG推進会議でその達成度合いを測定・評価しながら運用しました。2021年度も2020年度と同様のKPIを設定して運用しています。なお、現在のマテリアリティを設定するにあたっては右図のようなプロセスを経ています。

	マテリアリティ	取り組み内容	2020年度KPI	関連するSDGs
E	地球環境保全への貢献 P39	●脱炭素社会実現や循環型社会の形成を通じ、地球環境保全へ貢献する。	CO ₂ 自社総排出量：2050年度CO ₂ ネットゼロ、2040年度50%削減（2018年度比）に向けた取り組みの推進*	 
			リサイクル原料比率：リサイクル原料品目の拡大	
			埋立処分比率：2020年度1%未満	
S	くらしを支える先端素材の提供 P43	●新規の技術開発を推進し、IoT/AI社会の実現に貢献する。	IoT/AI社会に必要とされる先端素材の開発 技術立脚型経営を支える体制の構築	  
	魅力ある職場の実現 P53	●すべての従業員が安心・安全かつ健康的に働ける環境を実現する。 ●多様な人材が働きがいを感じながら個々の能力を最大限発揮できる環境を実現する。	重大な労働災害発生の低減：2020年度年千人率（休業4日以上）0.7以下	  
			年休取得率の向上：2020年度80%以上	
			人と組織の活性化に向けた取り組みの実施	
			健康増進に向けた取り組み：2020年度がん検診受診率70%以上	
			障がい者雇用率の維持・向上：2020年度2.3%以上	
	人権の尊重 P61	●地域住民、顧客、従業員、取引先を含むすべてのサプライチェーンに関わる人々の人権を尊重した事業活動を行う。	人権研修の受講率：2020年度100% サプライチェーンにおける人権調査の実施	 
G	地域コミュニティとの共存共栄 P65	●国内外の各事業拠点において地域に根差した社会貢献活動やコミュニケーションを行うことにより、地域社会との信頼関係を醸成する。	地域コミュニティとの対話の継続	 
	ガバナンスの強化 P69	●コンプライアンスの徹底やリスクマネジメント活動の推進により、事業経営の健全性・透明性を確保する。	全社的リスクマネジメント体制の着実な運用 事業特性・社会動向等を踏まえたコンプライアンス研修の実施	—

※ 2021年度の長期目標改定により、現在は50%削減の目標年度を2030年度に前倒ししています。

マテリアリティの特定プロセス



ESG推進体制

当社グループはこれまでもさまざまな社会貢献活動や環境保全活動を実施してきましたが、ESGに対する世界的な潮流を受けて、組織的対応を強化し、全社的視点からESG経営に取り組む必要があることから、2020年10月、ESGへの取り組みを統括する「ESG推進部」を発足し、関連会議体を整備しました。

社長の諮問機関であるESG推進会議を設置し、ESGへの対応に関する基本方針や活動計画、およびそれらのモニタリングを行っています。ESG推進会議は社長を議長、当社の経営会議のメンバーを構成員とし、原則として年2回開催されます。

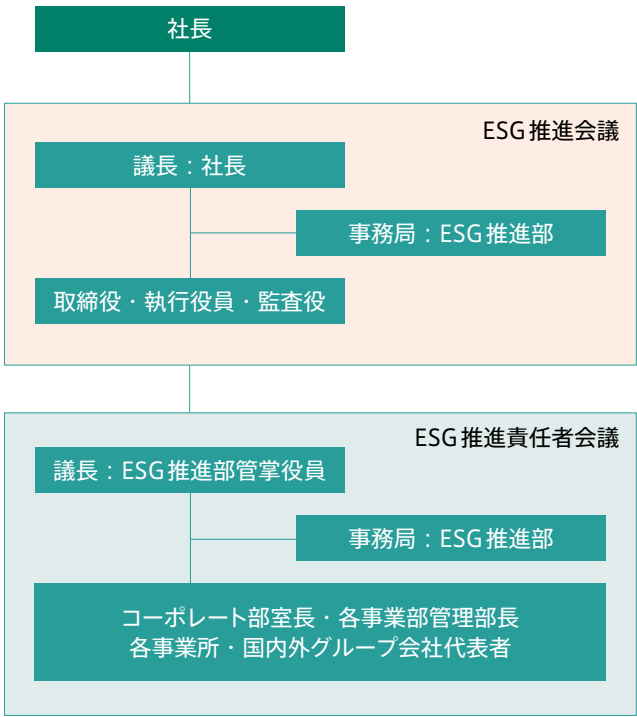
ESG推進会議・ESG推進責任者会議における
主な議論内容(2020年度)

- ESG重点項目の設定
 - ① 気候変動への対応
 - ② 循環型社会への貢献
 - ③ 国際規範・イニシアティブへの対応
- 各重点項目の活動方針および活動状況の報告

ESG経営の浸透

当社グループでは、ESG経営の浸透を図るため、ESG経営の重要性や当社の活動等の理解を深めるべく、イントラネットや社内報での情報発信のほか、社内研修およびeラーニング等を実施しています。

また、従業員へのESGやCSR意識の浸透、実践への関与状況などを調査するため、毎年「サステナビリティレポート」の配布とともに、アンケート用紙またはWEB上にてアンケートを実施しています。2020年度は5,307名(対象者数6,034名、回答率88%)が回答しました。



Q : 「JX金属グループ企業行動規範」を理解し、これに共感できますか？
はい…96.4% いいえ…2.1% 無回答…1.5%

Q : 組織や職場で「JX金属グループ企業行動規範」が浸透していると思いますか？
はい…78% いいえ…21.1% 無回答…0.9%

Q : 業務において判断に迷った時、解決のヒントを得るために「JX金属グループ企業行動規範」に立ち返っていると思いますか？
はい…82.6% いいえ…16.5% 無回答…1.0%

※設問に対しては回答として5つの選択肢があり、肯定的な回答は「はい」に、否定的な回答は「いいえ」に分類しています。